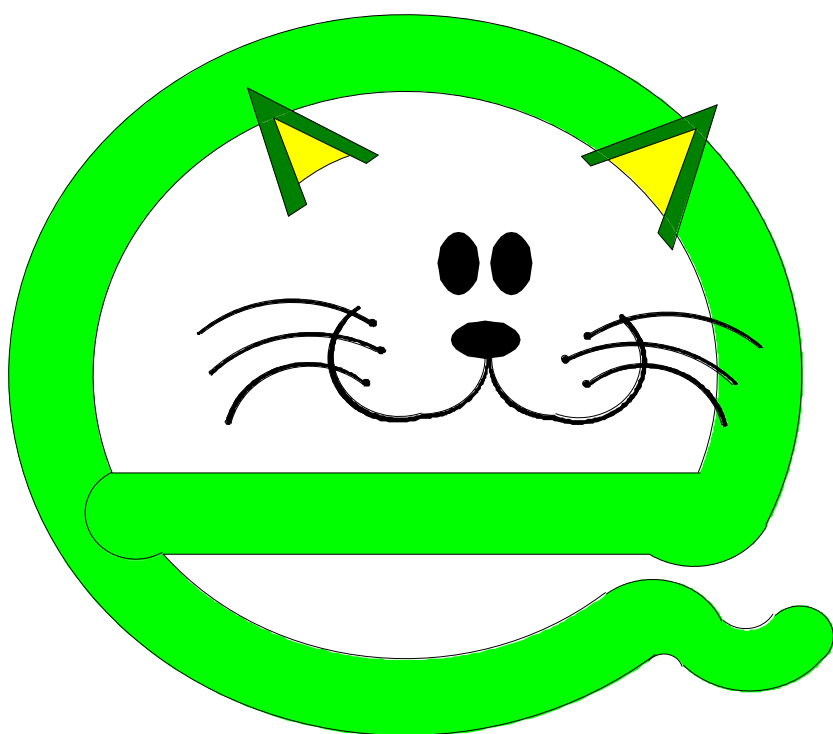


エコアクション21 環境経営活動 レポート



2017年度版

作成日 2024年 12月 6日

対象期間 2023年 11月 ~ 2024年10月



許斐建設 株式会社

【 目 次 】

表 紙	1
目 次	2
1. 事業概要	3
1) 事業者名及び代表者名	3
2) 所在地	3
3) 責任者及び事務局	3
4) 連絡先	3
5) 対象範囲	3
6) 事業規模	3
7) 組織図	3
2. 環境方針	4
3. 環境目標	5
4. 環境目標の実績	6
5. 環境活動計画の取組結果とその評価、	7
6. 次年度の取組内容	8
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	9
8. 代表者による全体の評価と見直し結果	9

1. 事業概要

1) 事業者名及び代表者氏名

許斐建設 株式会社
代表取締役 許斐 泰將

2) 所在地

〒880-1301
宮崎県東諸県郡綾町大字入野1205番地

3) 環境管理責任者及び事務局

EA-21責任者：日高 秀和

EA-21事務局：石谷 里沙

4) 連絡先

連絡担当者： 石谷 里沙
TEL番号： 0985-77-0171
FAX番号： 0985-77-0286
E-mail： c-konomi@fine.ocn.ne.jp

5) 対象範囲(全組織・全活動)

*対象組織

本社：宮崎県東諸県郡綾町大字入野1205
資材倉庫：宮崎県東諸県郡綾町大字入野1205

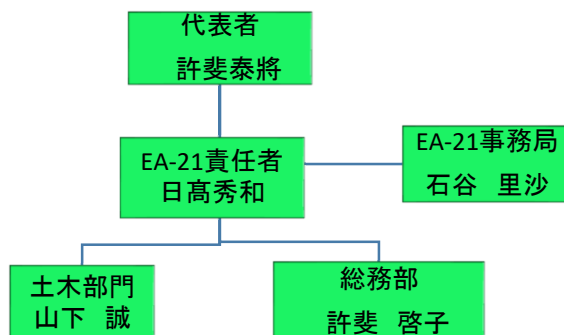
*対象活動

建設業（土木一式工事、舗装工事、法面工事、土木工事（一般型）、
建築工事、管工事）・不動産業

7) 事業規模

活動規模	単位	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
工事等の件数	件	10	14	16	19	21
従業員	人	8	8	8	8	8
事務所床面積	m ²	120	120	120	120	120
資材置場面積	m ²	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500

8) 推進組織図



2. 環境方針

環境方針

私たちは、建設工事が与える環境負荷を把握し、あらゆる分野で、自主的、積極的に環境保全に取り組み資源循環型社会形成に尽力して、持続可能な社会づくりに貢献します。

1. 我社は土木工事の事業活動を通じて、過去の環境負荷を把握した結果以下の事項について環境目標及び、環境活動計画を定め継続的な改善に努めます。
 - ①電気使用量・化石燃料使用量の節減による二酸化炭素排出量の削減
 - ②建設現場や事業所から排出される廃棄物の削減
 - ③積極的な環境保全活動の推進
 - ④節水活動の心掛け
 - ⑤環境に配慮した工事の提案
 - ⑥工期短縮を図る
2. 関連する環境の法規制を遵守するとともに、行政機関・団体地域の要請に協力します。
3. 事業活動で使用する用品は、エコ商品を積極的に使用するなど、グリーン購入に努め、循環型社会の実現に貢献いたします。
4. 環境保全のためのボランティアへの積極参加や、地域での社会貢献活動に努めます。

この環境方針は、当社全従業員に周知徹底するとともに、一般に公表します。

改定日 2022年4月1日
許斐建設 株式会社
代表取締役 許斐 泰將

3. 環境目標

* 当社の環境目標は、環境負荷の調査結果より以下のような目標を設定いたしました。
尚、目標設定の基準は2020年度～2022年度の実績平均値を使用しています。

取組み項目	実施区	年 度 別 環 境 目 標				
		基準値 (2020年度～ 2022年度)平均 値	2023年度 (2023年11月～ 2024年10月)	2024年度 (2024年11月～ 2025年10月)	2025年度 (2025年11月～ 2026年10月)	
1. 二酸化炭素排出量 の削減 (kg-CO2)	全体		基準比 0.5%削減	基準比 1.0%削減	基準比 1.5%削減	
		85,750.1	85,321.0	84,892.3	84,463.4	
	①電気使用量の 削減 (kWh)		基準比 0.5%削減	基準比 1.0%削減	基準比 1.5%削減	
	事務所	12,452.5	12,390.2	12,327.9	12,265.7	
		②ガソリン使用量 の削減 (L)		基準比 0.5%削減	基準比 1.0%削減	基準比 1.5%削減
		事務所	1,733.9	1,725.2	1,716.5	1,707.8
	現場	6,960.8	6,926.0	6,891.2	6,856.4	
	全体	8,694.7	8,651.2	8,607.7	8,564.2	
	③軽油使用量の 削減 (L)		基準比 0.5%削減	基準比 1.0%削減	基準比 1.5%削減	
現場	23,188.1	23,072.1	22,956.2	22,840.2		
2 廃棄物 の削 減	①.一般廃棄物の 削減 (kg)		基準比 0.5%削減	基準比 1.0%削減	基準比 1.5%削減	
	全社	31.2	31.0	30.8	30.7	
	現場	設計書(施工計画書)どうりの廃棄を行う				
3. 水資源使用量の 削減 (m3)	全社	地下水の為 未計量	節水の心がけ	節水の心がけ	節水の心がけ	
4. グリーン購入の促進 (エコ製品購入数)	全体	5	5品以上			
5. 自らが施工する 環境配慮	全体	環境活動計画の遵守				

* 水資源はメーターの無い地下水利用の為、節水を心掛けます。

* 産業廃棄物(建設副産物)は工事の件数や工種によって大きく左右されるため、『設計書どうりの廃棄』『廃掃法を遵守した廃棄』を行う事を活動目標として取り組んでいます。

* 化石燃料使用量は、工事件数工種によって大きく左右されるため、可否のカウントは行わない。
尚今まで同様低燃費の重機などの使用を心掛け使用量削減に取り組む。

*グリーン購入の促進はエコ製品の購入数を目標とします。

*購入電力の二酸化炭素排出係数は九州電力の実係数 0.462を使用しています。

3-2 環境目標

* 当社の環境目標は、環境負荷の調査結果より以下のような目標を設定いたしました。
尚、目標設定の基準は2023年度の実績値を使用しています。

取組み項目	実施区	年 度 別 環 境 目 標				
		基準値 2023年度実績 値	2024年度 (2024年11月～ 2025年10月)	2025年度 (2025年11月～ 2026年10月)	2026年度 (2026年11月～ 2027年10月)	
1. 二酸化炭素排出量の削減（kg-CO2）	全体		基準比 0.5%削減	基準比 1.0%削減	基準比 1.5%削減	
		110,024.8	109,474.1	108,924.0	108,374.1	
	①電気使用量の削減（kWh）		基準比 0.5%削減	基準比 1.0%削減	基準比 1.5%削減	
		事務所	13,697.6	13,629.1	13,560.6	13,492.1
	②ガソリン使用量の削減（L）		基準比 0.5%削減	基準比 1.0%削減	基準比 1.5%削減	
		事務所	1,484.1	1,476.6	1,469.2	1,461.8
		現場	7,742.2	7,703.4	7,664.7	7,626.0
	全体	9,226.3	9,180.0	9,133.9	9,087.8	
	③軽油使用量の削減（L）		基準比 0.5%削減	基準比 1.0%削減	基準比 1.5%削減	
現場		31,896.0	31,736.4	31,576.9	31,417.5	
2 廃棄物の削減	①.一般廃棄物の削減（kg）		基準比 0.5%削減	基準比 1.0%削減	基準比 1.5%削減	
		全社	30.9	30.7	30.5	30.4
	②.建設副産物廃棄方法の遵守	現場	設計書（施工計画書）どうりの廃棄を行う			
3. 水資源使用量の削減（ m3）						
	全社	地下水の為 未計量	節水の心がけ	節水の心がけ	節水の心がけ	
4. グリーン購入の促進（エコ製品購入数）	全体	5	5品以上			
5. 自らが施工する環境配慮	全体	環境活動計画の遵守				

* 水資源はメーターの無い地下水利用の為、節水を心掛けます。

* 産業廃棄物(建設副産物)は工事の件数や工種によって大きく左右されるため、『設計書どうりの廃棄』『廃掃法を遵守した廃棄』を行う事を活動目標として取り組んでいます。

* 化石燃料使用量は、工事件数工種によって大きく左右されるため、可否のカウントは行わない。
尚今まで同様低燃費の重機などの使用を心掛け使用量削減に取り組む。

*グリーン購入の促進はエコ製品の購入数を目標とします。

*購入電力の二酸化炭素排出係数は九州電力の実係数 0.462を使用しています。

4. 環境目標の実績

環境目標に対する達成状況は以下の通りです。

取組項目		'23年度目標値	'23年度実績	達成率	判定
1).二酸化炭素排出量の削減(kg-CO2)		85,321.0	110,024.8	77.5%	×
電力使用量の削減 (kWh)	事務所	12,390.2	13,697.6	90.5%	×
ガソリン使用量の削減 (L)	事務所	1,725.2	1,484.1	116.2%	×
	現場	6,926.0	7,742.2	89.5%	×
	全社	8,651.2	9,226.3	93.8%	×
軽油消費量の削減(L)	現場	23,072.1	31,896.0	72.3%	×
2) 廃棄物の削減と建設副産物の正常処理	廃棄物の削減(kg)	31.0	30.9	100.3%	○
	建設副産物の正常処理	設計書通利の処理	設計書通りの処理をしました(311.5)t	—	○
3) 水資源使用量の削減	節水の心掛け	節水の心掛け	節水の心掛け	—	○
4) グリーン購入の促進	エコ製品購入数	5品以上/年	3品購入	60.0%	△
6) 自らが施工する環境配慮		環境活動計画の遵守	遵守しています	—	○

- * 節水の心掛けは「環境活動計画実施状況管理表」で状況確認しています。
- * 購入電力のCO2排出係数は、九州電力の0.462 を使用しました。
- * グリーン購入の促進は達成率60.0%ですが、購入必需品が無かったため、評価は△としています。

5. 環境活動計画の取組結果とその評価

項 目	注意事項・確認事項	取組状況	評価
1. 電気使用量の削減	① 昼休みなどは消灯が行われている	不在箇所や昼休み時の消灯など、節電に対する従業員の意識向上を計ったが工事書類作成等による作業等に伴う消費電力等が嵩んだ。	○
	② 空調器の設定温度は守られている。		○
	③ 照明器具やエアコンフィルターの定期的な清掃。		○
2. 燃料使用量の削減	① 作業停車時などはアイドリングストップを行う	現場機械の最小数量・機械の選定の検討、車両のアイドリングストップなどのエコドライブの徹底や、相乗りによる現場出勤及び重機の日常点検や、フルパワー操作の抑制などを徹底することで燃料の消費削減を計ったが基準年度に比べ工事件数・工事内容が異なる為、目標達成が出来なかった。	○
	② 急発進・急加速・急停止、空ぶかし運転撲滅		○
	③ 事前段取りの徹底で折返し運転をなくす。		○
	④ 相乗りで現場へ行っている		○
	⑤ 重機の定期点検整備が行われている		○
	⑥ 重機はフルパワー操作をできるだけ控えている。		○
3. 廃棄物の削減	① 分別計量と記録(日付・種別・量・計量者)	事務所ではペーパーレスの推進などでコピー用紙削減などを図りコピー用紙の削減に努めた。又、積極的に裏紙等を使用し用紙の使用量削減に努めた。 電子マニフェストに移行しマニフェスト管理の簡素化につながり用紙の削減にもつながった。	○
	② 用紙の裏面利用、ペーパーレス化等に取り組んでいる		○
	③ 裏紙利用や 縮小コピー、両面コピーなどで枚数を削減している		○
	④ 1週間以上の産廃の仮置きはしない。		○
	⑤ マニフェストは必ず起票(交付)している。		○
	⑥ 残余材が出ないように発注時は在庫量や仕様書の数を確認している		○
	⑦ 業者のゴミは業者に持ち帰ってもらっている		○
4. 水使用量の削減	① 洗車時はこまめに蛇口を開閉して節水している	特に泥を落とした後に洗車することや、こまめな蛇口の開閉を徹底して節水を心掛けた。洗車に使用する水はタンクに雨水を溜め使用している。	○
5. グリーン製品の使用推進	① 製・商品の購入時には代替エコ製品を調べている	事務用品を中心にグリーンマークの付いた製品に替えるよう心掛けているが、今期は購入の機会が少なかった。また、現場で使用する資材や機材なども出来るだけ再生品など、環境配慮製品の使用を心掛ける。	○
	② 製・商品の購入時にはエコ製品を優先的に購入している		○
6. 自らが施工する環境配慮	② 環境配慮型重機や建設機械を使用している	設計書で指定される建設機械の使用を遵守している。粉塵・騒音・水質汚濁等に関しても現場等で適切に対処等を行い環境配慮に務めた。	○
	② 粉塵・振動・騒音・水質汚濁対策をしている		○
	③ 工期短縮に取り組んでいる		○

6.次年度の環境目標・環境活動計画

項 目	注意事項・確認事項
1. 電気使用量の削減	① 昼休みなどの休憩時間等は消灯が行う ② 空調器の設定温度は守る。 ③ 照明器具やエアコンフィルターの定期的な清掃をする。
2. 燃料使用量の削減	① 作業停車時などはアイドリングストップを行う ② 急発進・急加速・急停止、空ぶかし運転は行わない ③ 事前段取りの徹底で折り返し運転をなくすようにする ④ 相乗りで現場へ行く ⑤ 重機の定期点検整備が行う ⑥ 重機はフルパワー操作をできるだけ控えてエコ操作をする
3. 廃棄物の削減	① 分別計量記録をする(日付・種別・量) ② 用紙の裏面利用、ペーパーレス化等に取り組む ③ 裏紙利用や 縮小コピー、両面コピーなどで枚数を削減する ④ 1週間以上の産廃の仮置きはない。 ⑤ マニフェストは必ず起票(交付)する。 ⑥ 残余材が出ないように発注時は在庫量や仕様書の数を確認する ⑦ 業者のゴミは業者に持ち帰ってもらう
4. 水使用量の削減	① 洗車時はこまめに蛇口を開閉して節水する
5. グリーン製品の購入推進	① 製・商品の購入時には代替エコ製品を調べる ② 製・商品の購入時にはエコ製品を優先的に購入する
6.環境配慮型施工の推進	① 環境配慮型重機や建設機械を使用する ② 粉塵・振動・騒音・水質汚濁対策を講じる ③ 工期短縮に取り組む

次年度も今年度の取組を再徹底して取組むが、不具合が発生したり、他に効果的な活動事例などがあった場合は、随時に見直していく。

次年度の環境目標は、3.環境目標に記載しています。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社に関連する主な法規制は常に協会や自治体及び省庁などのHPで確認しています。
尚、関連法規制の遵守状況確認を毎年4回実施しており、違反はありませんでした。
又、関係当局や地域住民からの指摘や訴訟などありませんでした。
現場での遵守状況は、安全パトロール中や工程会議・安全会議時などで常に確認
しています。

法規名	該当する要求事項	評価
廃棄物処理法	委託契約の締結	順守
	マニフェストの交付、保管義務	順守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書	順守
	多量排出事業者 計画書、実施書	該当なし
	保管場所の掲示	順守
建設リサイクル法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	順守
	必要事項を都道府県知事に届け出	順守
	分別解体、再資源化促進、再資源使用	順守
フロン排出抑制法	簡易点検の実施	順守
騒音規制法	特定建設作業の実施の届出	該当なし
振動規制法	特定建設作業の実施の届出	該当なし

8. 代表者による全体の評価と見直し結果

目標達成に向け取り組んできたが今年度は、工事件数の増加に伴い目標達成が困難であった。

工事件数の件数が増えた事は良いことであるが施工に伴う化石燃料の使用量が増え今までの基準値では二酸化炭素排出量の削減が困難になっている。

今後、盛土規制法により現場発生土処理地等の指定が考えられる為、現場から遠方の場所での発生土処理となった場合運搬車量の燃料の増加が考えられる。

今後、2～3年の実績を元に新たな基準値の設定を考えた方が良いのではないかと。